

市民のひろば

☎857-8585(住所不要) 市役所秘書課広報係(☎④1111)

Eメール hishok@city.sasebo.nagasaki.jp

おたよりコーナー

佐世保市制 100 周年に寄せて

(松山町・山田 憲明さん)
私は佐世保で生まれ、佐世保で育ち、無事傘寿を迎え、このたび市制百周年のおめでたき日に感激もひと

しおです。益々のご発展をお祈り申し上げます。百周年に寄せて川柳を投句いたします。

- ・市制百年 思いめぐらす八十路坂
- ・市制百年 明日へつなぐ鹿子百合
- ・市制百年 夕映え冴ゆる九十九島

(広報係から)

紙面の都合で一部しかご紹介できませんでしたが、どの文面からも佐世保への深い愛着が伝わってきました。

お便りありがとうございました。

お便りをお寄せください

日ごろ感じていることや、子育ての悩み、地元の食材を使った料理など、皆さんのお便りをお待ちしています。住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、広報紙へのご意見をお書きください。

広報掲示板

これまでお寄せいただいた広報紙に対するご意見の一部をご紹介します。ご投稿いただいた皆さん、ありがとうございました。

- 以前に比べ、字も大きく、きめ細かい広報になり、大変読みやすくなりました。
- 色使いが主に緑で、目に優しい印象を受けました。見やすくなったと思います。

(広報係から)

5月号から文字を拡大し、緑色を使ったところ、見やすくなったというご意見をたくさん頂きました。来年の春までは季節ごとに色を変え、どの色が最適か、皆さんのご意見を伺いながら、今後の紙面に生かしていきます。紙面から少しでも季節感を感じていただけたら幸いです。

- 以前より随分紙面が充実してきて、読みやすくなりました。縦書きと横書きのページがあるので、どちらかに統一できないでしょうか。

(広報係から)

これまでの広報紙は縦書きが主でしたが、時代の流れとともに、全国的にも横書きが混在した広報紙が多く見受けられます。

広報させばも、縦書きを基本にしていますが、記事の内容(イベント記事や表を使った記事など)によって横書きを使ったり、紙面が単調にならないよう、縦書きのページに横書きの囲み記事を掲載したりしています。

今後も全体的な統一感を崩さないよう、他市の例も参考にしながら、研究していきます。

- 用紙が外れやすいので、真ん中をホチキスなどで留めてもらうと便利だと思います。

(広報係から)

これまで、保存するための2つ穴を開けてほしいという要望もいくつかいただきました。

ホチキスで留めたり、穴を開けたりすると、印刷費が今より高くなります。また、発行部数が多いため、穴を開ける作業だけでも約3日かかり、皆さんへの配布が遅くなってしまいます。

そのため、現在のところは予定がありませんが、今後も皆さんのご意見をお聞かせください。

広報クイズ

はがきに答えと住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙へのご意見を書いて、7月23日必着でどうぞ(紙面の中にヒントがあります)。

- 問題① 7月23日開催の自然観察エコスクールでは、○○○ガニを観察します。
- 問題② 本市が5月に任意合併協議会を設置した相手は、○○町と○○○町です。
- 問題③ 国家公務員の給料を100としたときの、本市職員給料との比較指数を「○○○指数」といいます。

全問正解者の中から抽選で、毎月3人に図書券をプレゼント。発表は発送をもって代えさせていただきます。

※前回の答えは①カノコ ②50 ③ジャジーでした。
たくさんのご応募ありがとうございました。

募集しています

特集の取材協力者

10月号はごみについての特集を予定していますが、取材にご協力いただける市民を募集します。詳しくは広報係にお尋ねください。

市政についてのご意見

市政に対する建設的なご意見を書面でお寄せください。

住所、氏名(ふりがな)、年齢、職業、電話番号、郵便番号を書き、「ご意見有用」担当あてと明記してお送りください。

歴史散歩 高島の水穴

(東浜町)

佐世保湾の早岐瀬戸入り口に“すりばち山”と呼ばれる標高127.4mの高島があります。海中から切り立った急斜面には「魚見岩」だった安山岩の巨岩が突き出し、独特の景観をつくり出しています。

島の北側に、昔から漁師さんたちが利用してきた真水のたまった水穴があります。高さ2mほどの入り口から、すぐ左下に向かって人工的に掘りくぼめられた穴には、すぐ入り口まで満々ときれいな水がたまっています。

大規模に掘られている穴は、水を汲むためとは思えません。それは、北の対岸の金山弾薬庫の山や早岐瀬戸沿いの江上金山と同様、流紋岩

層の上に安山岩が乗った地質で、いずれも金採掘用の鉱道を掘ったものと思われるからです。

甲斐(山梨県)の戦国大名・武田信玄は、砂金採取の奥州藤原三代のあと、黒川衆などの採金技術集団を使って、鉱山式の金採掘をし、家臣にも金を与えました。これを契機に、全国で金採掘が盛んになったのです。日宇に本拠を持つ小豪族も、この時代に情報を得て金鉱脈を探ったのでしょう。

高島は、昭和25年ごろまで日宇代官を務めた大久保家の所有でした。島の周辺で手広く真珠養殖をしていた高島末五郎氏の要望で、大久保壮雄氏が譲渡しました。現在は大阪の建設会社の所有になっています。(筒井隆義)

